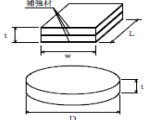
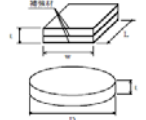
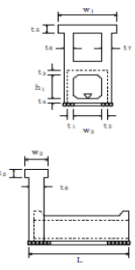
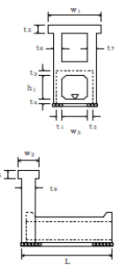
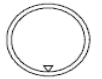



土木工事施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）									改正（令和2年7月）									改定理由																					
単位：mm									単位：mm																														
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要	改定理由																	
3	2	12	1	1	铸造費（金属支承工）	上唇の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403 CT13	製品全数を測定。 ※1) 片面削り加工も含む。 ※2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。		出来形管理基準-87	3	2	12	1	1	铸造費（金属支承工）	上唇の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法	JIS B 0403-1995 CT13	製品全数を測定。 ※1) ガス切断寸法を準用する。 ※2) 片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3) ソールプレートの接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4) 全移動量分の遊間が確保されているのかを要する。 ※5) 組立て後に測定		出来形管理基準-87		基準類の改定に伴う修正																
						全移動量 δ	$\delta \leq 300\text{mm}$	± 2									$\delta > 300\text{mm}$	$\pm \delta / 100$																					
							組立高さ H	上、下面加工仕上げ										± 3																					
						コンクリート構造用		$H \leq 300\text{mm}$									± 3	$H > 300\text{mm}$	(H/200+3) 小数点以下切り捨て																				
							普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※1) ※2)									JIS B 0403 CT14																						
						鑄放し肉厚寸法 ※1)		JIS B 0403 CT15																															
						削り加工寸法		JIS B 0405 粗級																															
						ガス切断寸法		JIS B 0417 B級																															
						3	2	12									1	2	铸造費（大型ゴム支承工）			幅 w、長さ L、直径 D ≤ 500		0~+5	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ（t）の最大相対誤差		出来形管理基準-87	3	2	12	1	2	铸造費（大型ゴム支承工）	幅 w、長さ L、直径 D ≤ 500	0~+5	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ（t）の最大相対誤差		出来形管理基準-87	基準類の改定に伴う修正
																						$500 < w、L、D \leq 1500\text{mm}$		0~+1%															
$1500 < w、L、D$	0~+15																																						
厚さ t	$t \leq 20\text{mm}$	± 0.5																																					
	$20 < t \leq 160$	$\pm 2.5\%$																																					
	$160 < t$	± 4																																					
平面度	$w、L、D \leq 1000\text{mm}$	1																																					
	$1000\text{mm} < w、L、D$	(w、L、D)/1000																																					

土木工事施工管理基準 新旧対照表

現行 (令和元年7月)										改正 (令和2年7月)										改定理由			
単位: mm										単位: mm													
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要	改定理由	
6 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	6 樋渠工	1	樋渠 (本体工)	基準高▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前 (載荷前)に測定する。		出来形管理 基準-104	6 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	6 樋渠工	1	樋渠 (本体工)	基準高▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前 (載荷前)に測定する。		出来形管理 基準-104		誤記の修 正
						厚さ t1 ~ t8	-20	樋渠寸法は、両端、施工継 手箇所及び図面の寸法表示 箇所にて測定。									厚さ t1 ~ t8	-20	樋渠寸法は、両端、施工継 手箇所及び図面の寸法表示 箇所にて測定。				
						幅 w1、w2	-30	門柱、操作台等は、図面の 寸法表示箇所にて測定。プレ キャスト製品使用の場合 は、製品寸法を規格証明書 で確認するものとし、『基 準高』と『延長』を測定。									幅 w1、w2	-30	門柱、操作台等は、図面の 寸法表示箇所にて測定。プレ キャスト製品使用の場合 は、製品寸法を規格証明書 で確認するものとし、『基 準高』と『延長』を測定。				
						内空幅 w3	-30										内空幅 w3	-30					
						内空高 h1	±30										内空高 h1	±30					
						延長	L < 10m	-20									1 施工箇所毎	延長	L < 10m			-20	
	L > 10m L ≤ 20m	-50			L > 10m L < 20m	-50																	
	L > 20m	-100			L > 20m	-100																	
6 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	6 樋渠工	2	樋渠 (ヒューム管) (P C管) (コルゲートパイ プ) (ダクタイル鋳鉄 管)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25 mの場合は50m)につき1 箇所、延長40m(又は50m) 以下のものは1 施工箇所 につき2 箇所		6 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	6 樋渠工	2	樋渠 (ヒューム管) (P C管) (コルゲートパイ プ) (ダクタイル鋳鉄 管)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25 mの場合は50m)につき1 箇所、延長40m(又は50m) 以下のものは1 施工箇所 につき2 箇所		1 施工箇所 毎	誤記の修 正		
						延長	L < 10m	-20									延長	L < 10m				-20	
							L > 10m L ≤ 20m	-50										L > 10m L < 20m				-50	
							L > 20m	-100										L > 20m				-100	

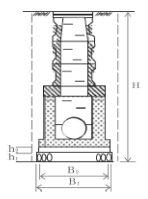
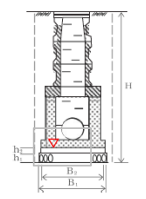
土木工事施工管理基準 新旧対照表

現行 (令和元年7月)										改正 (令和2年7月)										改定理由									
単位: mm										単位: mm																			
編	章	節	条	技番	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要	編	章	節	条	技番	工種	測定項目	規格値		測定基準		測定箇所	摘要					
10 道路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10 支 承 工	1	支 承 工 (鋼製支 承)	据付け高さ 注1)	±5	支 承 全 数 を 測 定。 B: 支 承 中 心 間 隔 (m)		出 來 形 管 理 基 準 -137	10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10 支 承 工	1	支 承 工 (鋼製支 承)	据付け高さ 注1)	±5	支 承 全 数 を 測 定。 B: 支 承 中 心 間 隔 (m)		出 來 形 管 理 基 準 -137	10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10 支 承 工	1	支 承 工 (鋼製支 承)		
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上		可動支承の移動 可能量 注2)								設計移動量以上												
						支 承 の 水 平 度	支 承 中 心 間 隔 (橋軸直 角方 向)	コン ク リ ー ト 橋	鋼 橋								注1) 先固定の場合は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注2) 可動支承の遊間 (L a、L b) を計測し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し て、 移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注3) 可動支承の移動量 検 査 は、 架 設 完 了 後 に 実 施 す る。 詳 細 は、 道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。	注1) 先固定の場合は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注2) 可動支承の遊間 (L a、L b) を計測し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し て、 移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注3) 可動支承の移動量 検 査 は、 架 設 完 了 後 に 実 施 す る。 詳 細 は、 道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。	±5	4+0.5×(B-2)								±5	±(4+0.5×(B-2))
							橋軸方向	1/100																					
							橋軸直角方向	1/100									橋軸直角方向	1/100											
							可動支承の橋軸方向の ずれ 同一支 承 線 上 の 相 対 誤 差	5									可動支承の橋軸方向の ずれ 同一支 承 線 上 の 相 対 誤 差	5											
	可動支承の移動量 注 3)	温度変化に伴う移動量 計算値の1/2以上		可動支承の移動量 注 3)	温度変化に伴う移動量 計算値の1/2以上																								
10 道路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10 支 承 工	1	支 承 工 (ゴム支 承)	据付け高さ 注1)	±5	支 承 全 数 を 測 定。 B: 支 承 中 心 間 隔 (m)		出 來 形 管 理 基 準 -137	10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10 支 承 工	1	支 承 工 (ゴム支 承)	据付け高さ 注1)	±5	支 承 全 数 を 測 定。 B: 支 承 中 心 間 隔 (m)		出 來 形 管 理 基 準 -137	10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10 支 承 工	1	支 承 工 (ゴム支 承)		
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上		可動支承の移動 可能量 注2)								設計移動量以上												
						支 承 の 水 平 度	支 承 中 心 間 隔 (橋軸直 角方 向)	コン ク リ ー ト 橋	鋼 橋								注1) 先固定の場合は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注2) 可動支承の遊間 (L a、L b) を計測し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し て、 移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注3) 可動支承の移動量 検 査 は、 架 設 完 了 後 に 実 施 す る。 詳 細 は、 道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。	注1) 先固定の場合は、支 承 上 面 で 測 定 す る。 注2) 可動支承の遊間 (L a、L b) を計測し、支 承 据 付 時 の オ フ セ ッ ト 量 δ を 考 慮 し て、 移 動 可 能 量 が 道 路 橋 支 承 便 覧 の 規 格 値 を 満 た す こ と を 確 認 す る。 注3) 可動支承の移動量 検 査 は、 架 設 完 了 後 に 実 施 す る。 詳 細 は、 道 路 橋 支 承 便 覧 参 照。	±5	4+0.5×(B-2)								±5	±(4+0.5×(B-2))
							橋軸方向	1/300																					
							橋軸直角方向	1/300									橋軸直角方向	1/300											
							可動支承の橋軸方向の ずれ 同一支 承 線 上 の 相 対 誤 差	5									可動支承の橋軸方向の ずれ 同一支 承 線 上 の 相 対 誤 差	5											
	可動支承の移動量 注 3)	温度変化に伴う移動量 計算値の1/2以上		可動支承の移動量 注 3)	温度変化に伴う移動量 計算値の1/2以上																								

土木工事施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）										改正（令和2年7月）										改定理由		
単位：mm										単位：mm												
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要
11	公園編	1	3	5	敷地造成工			第1編2-3-3盛土工に準ずる		出来形管理基準-148	11	1	3	5	敷地造成工				第1編2-3-3盛土工および第1編2-4-3路体盛土工に準ずる		出来形管理基準-148	国に準拠して改正
11	公園編	1	3	6	路体盛土工			第1編2-4-3路体盛土工および第1編2-4-4路床安定工に準ずる		出来形管理基準-148	11	1	3	6	路体盛土工				第1編2-4-3路体盛土工および第1編2-4-4路床盛土工に準ずる		出来形管理基準-148	誤記の修正
11	公園編	1	8	6	補強土壁工	補強土壁基礎 帯鋼補強土壁・ 7ノカ補強土壁 シ ^レ テックス ^イ 補強土壁		第3編2-15-2プレキャスト擁壁工に準ずる。 第1編2-3-4盛土補強工、第3編2-5-15-3補強土壁工に準ずる。		出来形管理基準-154	11	1	8	6	補強土壁工	帯鋼補強土壁・ 7ノカ補強土壁 シ ^レ テックス ^イ 補強土壁			第1編2-3-4盛土補強工、第3編2-15-3補強土壁工に準ずる。		出来形管理基準-154	国に準拠して改正
11	公園編	3	4	6	側溝工	L型側溝 管（函）渠型側溝 プレキャスト型側溝 プレキャスト型側溝 コブ ^レ ト ^ア 型 自由勾配側溝 特殊円形側溝		第3編2-3-30集水排水工に準ずる。		出来形管理基準-159	11	3	4	6	側溝工	L型側溝 管（函）渠型側溝 プレキャスト型側溝 プレキャスト型側溝 コブ ^レ ト ^ア 型 自由勾配側溝 特殊円形側溝			第3編2-3-29側溝工に準ずる。		出来形管理基準-159	誤記の修正

土木工事施工管理基準 新旧対照表

現行 (令和元年7月)										改正 (令和2年7月)										改定理由		
単位: mm										単位: mm												
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	改定理由
12 下水道編	1 下水道工事	5 立坑・人孔築造工			立坑・人孔築造基礎工	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		出来形管理基準-192	12 下水道編	1 下水道工事	5 立坑・人孔築造工			立坑・人孔築造基礎工	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		出来形管理基準-192	誤記の修正
						床掘深H	±30										床掘深H	±30				
						基礎工幅 B1	-50										基礎工幅 B1	-50				
						基礎工幅 h1	-30										基礎工厚 h1	-30				
						コンクリート工幅 B2	-30										コンクリート工幅 B2	-30				
						コンクリート工幅 h2	-10										コンクリート工厚 h2	-10				

土木施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）								改正（令和2年7月）								改定理由		
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準		摘要	試験成績表等による確認
4 下層路盤	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -5	再生下層路盤材：修正CBR40%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	4 下層路盤	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -68	再生下層路盤材：修正CBR40%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	基準類の改定に伴う修正
		必須	鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -16	1.5%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・CS：クラッシュラン鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○			基準類の改定に伴う修正							
	施工	必須	現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -185 砂置換法（JIS A 1214） 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる	個々の測定値	測定値の平均値X _n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	○	4 下層路盤	施工	必須	現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -256 砂置換法（JIS A 1214） 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる	個々の測定値	測定値の平均値X _n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	○	基準類の改定に伴う修正
					車道、路肩等	最大乾燥密度の93%以上								X ₃ =97%以上 X _{4~6} =96%以上 X ₇ =95%以上	車道、路肩等			
		歩道（密度を落とした場合）	最大乾燥密度の88%以上	X ₃ =90%以上 X _{4~6} =89.5%以上 X ₇ =89%以上	歩道（密度を落とした場合）	最大乾燥密度の88%以上	X ₃ =90%以上 X _{4~6} =89.5%以上 X ₇ =89%以上											
		必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -210		・全幅、全区間で実施する。 ・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。 ・300㎡以下は省略できる。					必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -288		・全幅、全区間で実施する。 ・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。 ・300㎡以下は省略できる。			基準類の改定に伴う修正
5 上層路盤	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -5	修正CBR80%以上 アスファルトコンクリート再生骨材含む場合90%以上 40℃で行った場合80%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	5 上層路盤	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -68	修正CBR80%以上 アスファルトコンクリート再生骨材含む場合90%以上 40℃で行った場合80%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	基準類の改定に伴う修正
		必須	鉄鋼スラグの修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -5	修正CBR80%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○				必須	鉄鋼スラグの修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -68	修正CBR80%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○

土木施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）										改正（令和2年7月）										
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認		工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	改定理由	
5 上層 路盤	材料	必須	鉄鋼スラグの呈色判定試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -10	呈色なし	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○		5 上層 路盤	材料	必須	鉄鋼スラグの呈色判定試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -73	呈色なし	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	基準類の改定に伴う修正	
		必須	鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -16	1.5%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○				基準類の改定に伴う修正								
		必須	鉄鋼スラグの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -12	1.2Mpa以上（14日）	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・HMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○				基準類の改定に伴う修正								
		必須	鉄鋼スラグの単位容積質量試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -106	1.50kg/L以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○				基準類の改定に伴う修正								
施工	必須		現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -185 砂置換法（JIS A 1214） 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる	個々の測定値	測定値の平均値 X n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。			施工	必須		現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -256 砂置換法（JIS A 1214） 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる	個々の測定値	測定値の平均値 X n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。			基準類の改定に伴う修正
					車道、路肩等	最大乾燥密度の93%以上									X3=96.5%以上 X4^6=95.5%以上 X7^=95%以上	車道、路肩等				
施工	必須		粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±15%以内		・中規模以上の工事：定期的又は随時（1回～2回/日）異常が認められたとき。			施工	必須		粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -16	2.36mmふるい：±15%以内		・中規模以上の工事：定期的又は随時（1回～2回/日）異常が認められたとき。			基準類の改定に伴う修正
					75μmふるい：±6%以内										75μmふるい：±6%以内					

土木施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）								改正（令和2年7月）								改定理由		
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準		摘要	試験成績表等による確認
7 セメント 安定処理 路盤	材料	必須	一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -38	下層路盤：一軸圧縮強さ[7日間]0.98Mpa 上層路盤：一軸圧縮強さ[7日間]2.9Mpa（アスファルト舗装）、2.0Mpa（セメントコンクリート舗装）	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・安定処理材に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	7 セメント 安定処理 路盤	材料	必須	一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -102	下層路盤：一軸圧縮強さ[7日間]0.98Mpa 上層路盤：一軸圧縮強さ[7日間]2.9Mpa（アスファルト舗装）、2.0Mpa（セメントコンクリート舗装）	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・安定処理材に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	基準類 の改定 に伴う 修正
		必須	骨材の修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -5	下層路盤：10%以上 上層路盤：20%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・アスファルト舗装に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。				・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・アスファルト舗装に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	基準類 の改定 に伴う 修正					
		必須	土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205 舗装調査・試験法便覧 [4] -103	下層路盤 塑性指数P I：9以下 上層路盤 塑性指数P I：9以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・アスファルト舗装に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。				・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・アスファルト舗装に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	基準類 の改定 に伴う 修正					
施工	必須	現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -185 砂置換法（JIS A 1214） 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる	車道、路肩等 最大乾燥密度の93%以上	個々の測定値 測定値の平均値X _n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	○	施工	必須	現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -256 砂置換法（JIS A 1214） 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる	車道、路肩等 最大乾燥密度の93%以上	個々の測定値 測定値の平均値X _n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	○	基準類 の改定 に伴う 修正
施工	その他	セメント量試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -213、218	±1.2%以内		・中規模以上の工事：異常が認められたとき（1～2回/日）	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	○	施工	その他	セメント量試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -293、297	±1.2%以内		・中規模以上の工事：異常が認められたとき（1～2回/日）	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	○	基準類 の改定 に伴う 修正

土木施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）								改正（令和2年7月）								改定理由		
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準		摘要	試験成績表等による確認
8 アス ファ ルト 舗 装	材 料	必 須	粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -45	細長、あるいは扁平な石材：10%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○	8 ア ス フ ア ル ト 舗 装	材 料	必 須	粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -51	細長、あるいは扁平な石材：10%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 ・300㎡以下は省略できる。	○	基準類の改定に伴う修正
			その他	ファイラーのフロー試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -65	50%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。				○	基準類の改定に伴う修正					
			その他	ファイラーの水浸膨張試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -59	3%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。				○	基準類の改定に伴う修正					
			その他	ファイラーの剥離抵抗性試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -61	1/4以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。				○	基準類の改定に伴う修正					
			その他	製鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -77	水浸膨張比：2.0%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・300㎡以下は省略できる。				○	基準類の改定に伴う修正					
			その他	高温動粘度試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -180	舗装施工便覧参照 ・セミプローンアスファルト：表3.3.4	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。				○	基準類の改定に伴う修正					
			その他	60℃粘度試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -192	舗装施工便覧参照 ・セミプローンアスファルト：表3.3.4	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。				○	基準類の改定に伴う修正					
			その他	タフネス・テナシティ試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -244	舗装施工便覧参照 ・改質アスファルト：表3.3.3	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。				○	基準類の改定に伴う修正					

土木施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）								改正（令和2年7月）								改定理由		
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準		摘要	試験成績表等による確認
8 アスファルト舗装	プラント	必須	粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧（平成18年版）表10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○	8 アスファルト舗装	プラント	必須	粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -16	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧（平成18年版）表10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○	基準類の改定に伴う修正
		必須	粒度（75μmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -15	75μmふるい：±5%以内基準粒度	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧（平成18年版）表10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○			基準類の改定に伴う修正							
		必須	アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	アスファルト量±0.9%以内	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧（平成18年版）表10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○			基準類の改定に伴う修正							
		その他	水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -57	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認				○	基準類の改定に伴う修正						
		その他	ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -39	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認				○	基準類の改定に伴う修正						
		その他	ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -17	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認				○	基準類の改定に伴う修正						
舗設現場	必須	現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -91		個々の測定値	測定値の平均値 X n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 ・但し、橋面舗装はコア採取しないでAs合材量（プラント出荷数量）と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	○	舗設現場	必須	現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -218		個々の測定値	測定値の平均値 X n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 ・但し、橋面舗装はコア採取しないでAs合材量（プラント出荷数量）と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	○	基準類の改定に伴う修正
				車道	基準密度の94%以上	X3=96.5%以上 X4=96%以上 X7=96%以上							車道	基準密度の94%以上	X3=96.5%以上 X4=96%以上 X7=96%以上			
				歩道	基準密度の90%以上	X3=92.5%以上 X4=92%以上							歩道	基準密度の90%以上	X3=92.5%以上 X4=92%以上			
その他	すべり抵抗試験	舗装調査・試験法便覧 [1] -84	設計図書による。	舗設車線毎200m毎に1回				○	舗設現場	その他	すべり抵抗試験	舗装調査・試験法便覧 [1] -101	設計図書による。	舗設車線毎200m毎に1回			○	基準類の改定に伴う修正

土木施工管理基準 新旧対照表

現行 (令和元年7月)								改正 (令和2年7月)								改定理由												
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準		摘要	試験成績表等による確認										
9	転圧	施工	必須	マーシャル突き固め試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -290 ※いずれか1方法	目標値の±1.5%	1日2回(午前・午後)以上、その他コンシステンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。ただし運搬車ごとに目視観察を行う。		○	9	転圧	施工	必須	マーシャル突き固め試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -344 ※いずれか1方法	目標値の±1.5%	1日2回(午前・午後)以上、その他コンシステンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。ただし運搬車ごとに目視観察を行う。		○	基準類の改定に伴う修正								
				ランマー突き固め試験		目標値の±1.5%	1日2回(午前・午後)以上、その他コンシステンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。ただし運搬車ごとに目視観察を行う。							基準類の改定に伴う修正														
			必須	コアによる密度測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -300		1,000㎡に1個の割合でコアを採取して測定							必須	コアによる密度測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -353		1,000㎡に1個の割合でコアを採取して測定				基準類の改定に伴う修正						
10	グ	材料	必須	粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -45	細長、あるいは扁平な石材：10%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○	10	グ	材料	必須	粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -51	細長、あるいは扁平な石材：10%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○	基準類の改定に伴う修正								
			プラ	ント	必須	貫入試験40℃	舗装調査・試験法便覧 [3] -315	貫入量(40℃)目標値 表層：1~4mm 基層：1~6mm					配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。		○	プラ	ント	必須		貫入試験40℃	舗装調査・試験法便覧 [3] -402	貫入量(40℃)目標値 表層：1~4mm 基層：1~6mm	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。		○	基準類の改定に伴う修正		
					必須	リュエル流動性試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -320	3~20秒(目標値)					配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。					○		必須	リュエル流動性試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -407	3~20秒(目標値)	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。			○	基準類の改定に伴う修正
					必須	ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -39	300以上					配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。															○
					必須	曲げ試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -69	破断ひずみ(-10℃、50mm/min) 8.0×10 ⁻³ 以上					配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。					○		必須	曲げ試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -79	破断ひずみ(-10℃、50mm/min) 8.0×10 ⁻³ 以上	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。			○	
					必須	粒度(2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度					・中規模以上の工事：定期的又は随時 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。印字記録の場合：全数又は抽出 ・ふるい分け試験1~2回/日	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。														○
					必須	粒度(75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	75μmふるい：±5%以内基準粒度					・中規模以上の工事：定期的又は随時 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。印字記録の場合：全数又は抽出 ・ふるい分け試験1~2回/日	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。				○		必須	粒度(75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -16	75μmふるい：±5%以内基準粒度	・中規模以上の工事：定期的又は随時 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。印字記録の場合：全数又は抽出 ・ふるい分け試験1~2回/日		・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。	○	
					必須	アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -238	アスファルト量±0.9%以内					・中規模以上の工事：定期的又は随時 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。印字記録の場合：全数又は抽出 ・ふるい分け試験1~2回/日	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。										○		必須		アスファルト量抽出粒度分析試験

土木施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）								改正（令和2年7月）										
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	改定理由
11 路床安定処理工	材料	必須	C B R 試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -155、158	設計図書による。		当初及び土量の変化したとき。		11 路床安定処理工	材料	必須	C B R 試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -227、230	設計図書による。		当初及び土量の変化したとき。		基準類の改定に伴う修正
			現場密度の測定 ※右記試験法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm：砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] -185 突砂法	最大乾燥密度の90%以上、又は設計図書による。	500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。1回の試験につき3孔の最低値で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。					現場密度の測定 ※右記試験法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm：砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] -266 突砂法	最大乾燥密度の90%以上、または設計図書による。	500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。1回の試験につき3孔の最低値で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。		基準類の改定に伴う修正
			ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -210	沈下状況異常なし	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・確認試験である。 ・但し、荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。					ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -288	沈下状況異常なし	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・確認試験である。 ・ただし、荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。		基準類の改定に伴う修正
			たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1] -227 (ベンゲルマンビーム)	設計図書による。	ブルーフローリングでの不良個所について実施	確認試験である。					たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1] -284 (ベンゲルマンビーム)	設計図書による。	ブルーフローリングでの不良個所について実施	確認試験である。		基準類の改定に伴う修正
12 表層安定処理工（表層混合処理）	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm：砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] -185 突砂法	最大乾燥密度の90%以上、又は設計図書による。	500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。1回の試験につき3孔の最低値で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。		12 表層安定処理工（表層混合処理）	施工	その他	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm：砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] -256 突砂法	最大乾燥密度の90%以上、または設計図書による。	500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。1回の試験につき3孔の最低値で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。		基準類の改定に伴う修正
			ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -210	沈下が認められた場合は、その場所においてベンゲルマンビーム等によるたわみ良測定を行うものとする。	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・確認試験である。 ・但し、荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。					ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -288	沈下が認められた場合は、その場所においてベンゲルマンビーム等によるたわみ良測定を行うものとする。	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・確認試験である。 ・ただし、荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。		基準類の改定に伴う修正
			たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1] -227 (ベンゲルマンビーム)	設計図書による。	ブルーフローリングでの不良個所について実施	確認試験である。					たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1] -284 (ベンゲルマンビーム)	設計図書による。	ブルーフローリングでの不良個所について実施	確認試験である。		基準類の改定に伴う修正
15 補強土壁工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm：砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] -185 突砂法	次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上（締固め試験 (JIS A 1210) A・B法）もしくは90%以上（締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法）ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法（例えば、標準よりも転圧力の大きな機会を使用する場合や1層当たりの仕上り厚を薄くする場合に）適用する。または、設計図書による。	500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。1回の試験につき3孔の最低値で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。		15 補強土壁工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm：砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] -256 突砂法	次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上（締固め試験 (JIS A 1210) A・B法）もしくは90%以上（締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法）ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法（例えば、標準よりも転圧力の大きな機会を使用する場合や1層当たりの仕上り厚を薄くする場合に）適用する。または、設計図書による。	500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。1回の試験につき3孔の最低値で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。		基準類の改定に伴う修正
18 河川土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm：砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] -185 突砂法	最大乾燥密度の90%以上。ただし、上記により難い場合は、飽和度または空気間隙率の測定によることができる。 [砂質土 (25% ≤ 75 μ mふるい通過分 < 50%)] 空気間隙率VaがVa ≤ 15% [粘性土 (50% ≤ 75 μ mふるい通過分)] 飽和度Srが85% ≤ Sr ≤ 95%または空気間隙率Vaが2% ≤ Va ≤ 10% または設計図書による。	築堤は、1,000m3に1回の割合、または堤体延長20mに3回の割合の内、測定頻度の高い方で実施する。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の平均値で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。		18 河川土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm：砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] -256 突砂法	最大乾燥密度の90%以上。ただし、上記により難い場合は、飽和度または空気間隙率の測定によることができる。 [砂質土 (25% ≤ 75 μ mふるい通過分 < 50%)] 空気間隙率VaがVa ≤ 15% [粘性土 (50% ≤ 75 μ mふるい通過分)] 飽和度Srが85% ≤ Sr ≤ 95%または空気間隙率Vaが2% ≤ Va ≤ 10% または設計図書による。	築堤は、1,000m3に1回の割合、または堤体延長20mに3回の割合の内、測定頻度の高い方で実施する。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の平均値で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。		基準類の改定に伴う修正
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1] -216	設計図書による。	トラフィカビリティが悪いとき。	確認試験である。					コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1] -273	設計図書による。	トラフィカビリティが悪いとき。	確認試験である。		基準類の改定に伴う修正

土木施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）								改正（令和2年7月）								改定理由		
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準		摘要	試験成績表等による確認
19 海岸 土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類） のいずれかを実施する。	最大粒径≦53mm：砂置換法（JIS A 1214） 最大粒径>53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] - 185 突砂法	最大乾燥密度の85%以上、または、設計図書に示された値。	築堤は、1,000m3に1回の割合、または堤体延長20mに3回の割合の内、測定頻度の高い方で実施する。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の 平均値 で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。		19 海岸 土工	材料	必須	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類） のいずれかを実施する。	最大粒径≦53mm：砂置換法（JIS A 1214） 最大粒径>53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] - 256 突砂法	最大乾燥密度の85%以上、または、設計図書に示された値。	築堤は、1,000m3に1回の割合、または堤体延長20mに3回の割合の内、測定頻度の高い方で実施する。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の 最低値 で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。		基準類の改定に伴う修正
		その他	コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1] -216	設計図書による。	トラフィカビリティが悪いとき。	確認試験である。				その他	コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1] -273	設計図書による。	トラフィカビリティが悪いとき。	確認試験である。		基準類の改定に伴う修正
20 砂防 土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類） のいずれかを実施する。	最大粒径≦53mm：砂置換法（JIS A 1214） 最大粒径>53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] - 185 突砂法	最大乾燥密度の85%以上、または、設計図書に示された値。	築堤は、1,000m3に1回の割合、または設計図書による。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の 平均値 で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。		20 砂防 土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類） のいずれかを実施する。	最大粒径≦53mm：砂置換法（JIS A 1214） 最大粒径>53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] - 256 突砂法	最大乾燥密度の85%以上、または、設計図書に示された値。	築堤は、1,000m3に1回の割合、または設計図書による。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の 最低値 で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。		基準類の改定に伴う修正
21 道路 土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類） のいずれかを実施する。	最大粒径≦53mm：砂置換法（JIS A 1214） 最大粒径>53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] - 185 突砂法	【砂質土】 ・路体：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の90%以上（締固め試験（JISA1210）A・B法）。 ・路床及び構造物取付け部：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上（締固め試験（JISA1210）A・B法）もしくは90%以上（締固め試験（JISA1210）C・D・E法） ただし、JISA1210C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法（例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合）に適用する。 【粘性土】 ・路体：自然含水比またはトラフィカビリティが確保できる含水比において、空気間隙率Vaが2%≦Va≦10%または飽和度Srが85%≦Sr≦95%。 ・路床及び構造物取付け部：トラフィカビリティが確保できる含水比において、空気間隙率Vaが2%≦Va≦8% ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。 その他、設計図書による。	路体の場合、1,000m3につき1回の割合で行う。 路床及び構造物取付け部の場合、500m3につき1回の割合で行う。ただし、1,500m3未満の工事は1工事当たり3回以上。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の 最低値 で判定を行う。			21 道路 土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験法（3種類） のいずれかを実施する。	最大粒径≦53mm：砂置換法（JIS A 1214） 最大粒径>53mm：舗装調査・試験法便覧 [4] - 256 突砂法	【砂質土】 ・路体：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の90%以上（締固め試験（JISA1210）A・B法）。 ・路床及び構造物取付け部：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上（締固め試験（JISA1210）A・B法）もしくは90%以上（締固め試験（JISA1210）C・D・E法） ただし、JISA1210C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法（例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合）に適用する。 【粘性土】 ・路体：自然含水比またはトラフィカビリティが確保できる含水比において、空気間隙率Vaが2%≦Va≦10%または飽和度Srが85%≦Sr≦95%。 ・路床及び構造物取付け部：トラフィカビリティが確保できる含水比において、空気間隙率Vaが2%≦Va≦8% ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。 その他、設計図書による。	路体の場合、1,000m3につき1回の割合で行う。 路床及び構造物取付け部の場合、500m3につき1回の割合で行う。ただし、1,500m3未満の工事は1工事当たり3回以上。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の 最低値 で判定を行う。			基準類の改定に伴う修正
		必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -210	沈下状況異常なし	路床仕上げ後全幅、全区間で実施する。ただし、現道打換工事、仮設用道路維持工事は除く。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固め効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。				必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -288	沈下状況異常なし	路床仕上げ後全幅、全区間で実施する。ただし、現道打換工事、仮設用道路維持工事は除く。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固め効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。		基準類の改定に伴う修正
		その他	コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1] -216	設計図書による。	トラフィカビリティが悪いとき。	確認試験である。				その他	コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1] -273	設計図書による。	トラフィカビリティが悪いとき。	確認試験である。		基準類の改定に伴う修正
		その他	たわみ良	舗装調査・試験法便覧 [1] -227 (ベンゲルマンビーム)	設計図書による。	ブルーフローリングでの不良箇所について実施	確認試験である。				その他	たわみ良	舗装調査・試験法便覧 [1] -284 (ベンゲルマンビーム)	設計図書による。	ブルーフローリングでの不良箇所について実施	確認試験である。		基準類の改定に伴う修正

土木施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）								改正（令和2年7月）								改定理由				
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準		摘要	試験成績表等による確認		
27 路上再生路盤工	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -5	修正CBR20%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。		27 路上再生路盤工	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -68	修正CBR20%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。		基準類の改定に伴う修正		
	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -185 砂置換法（JIS A 1214） 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる	基準密度の93%以上	1,000㎡に1回			27 路上再生路盤工	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -256 砂置換法（JIS A 1214） 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる	基準密度の93%以上	1,000㎡に1回				基準類の改定に伴う修正	
		必須	土の一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -68	設計図書による。	当初及び材料の変化時				27 路上再生路盤工	必須	土の一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -133	設計図書による。	当初及び材料の変化時					基準類の改定に伴う修正
		必須	CAEの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -69	設計図書による。	当初及び材料の変化時	CAEの一軸圧縮試験とは、路上再生アスファルト乳剤安定処理路盤材料の一軸圧縮試験を指す。			27 路上再生路盤工	必須	CAEの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -135	設計図書による。	当初及び材料の変化時	CAEの一軸圧縮試験とは、路上再生アスファルト乳剤安定処理路盤材料の一軸圧縮試験を指す。				基準類の改定に伴う修正
28 路上表層再生工	材料	必須	既設表層混合物の密度試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -91		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。		28 路上表層再生工	材料	必須	既設表層混合物の密度試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -218		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。			基準類の改定に伴う修正	
		必須	既設表層混合物の最大比重試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -229		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。		28 路上表層再生工	必須	既設表層混合物の最大比重試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -309		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。				基準類の改定に伴う修正	
		必須	既設表層混合物のアスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -238		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。		28 路上表層再生工	必須	既設表層混合物のアスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -318		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。				基準類の改定に伴う修正	
		必須	既設表層混合物のふるい分け試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -14		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。		28 路上表層再生工	必須	既設表層混合物のふるい分け試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -16		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。				基準類の改定に伴う修正	
施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -91	96%以上	1,000㎡につき1個	空隙率による管理でもよい。			28 路上表層再生工	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -218	基準密度の96%以上	1,000㎡につき1個	空隙率による管理でもよい。				基準類の改定に伴う修正
	その他		粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±12%以内	適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。		28 路上表層再生工	その他		粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -16	2.36mmふるい：±12%以内	適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。				基準類の改定に伴う修正
	その他		粒度（75μmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	75μmふるい：±5%以内	適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。		28 路上表層再生工	その他		粒度（75μmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -16	75μmふるい：±5%以内	適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。				基準類の改定に伴う修正
	その他		アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	アスファルト量：±0.9%以内	適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。		28 路上表層再生工	その他		アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -318	アスファルト量：±0.9%以内	適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。				基準類の改定に伴う修正

土木施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）								改正（令和2年7月）								改定理由		
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準		摘要	試験成績表等による確認
29 排水性舗装工・透水性舗装工	材料	必須	粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -45	細長、あるいは扁平な石材：10%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○	29 排水性舗装工・透水性舗装工	材料	必須	粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -51	細長、あるいは扁平な石材：10%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○	基準類の改定に伴う修正
		その他	ファイラーのフロー試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -65	50%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○			基準類の改定に伴う修正							
		その他	製鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -77	水浸膨張比：2.0%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○			基準類の改定に伴う修正							
		その他	タフネス・テナシティ試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -244	タフネス：20N・m テナシティ：15N・m以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○			基準類の改定に伴う修正							
		その他	60℃粘度試験	舗装試験法便覧 3-5-11	20,000Pa・s	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○			基準類の改定に伴う修正							
プラント	必須	必須	粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧（平成18年版）表 10.5.1による。	○	プラント	必須	必須	粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -16	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧（平成18年版）表 10.5.1による。	○	基準類の改定に伴う修正		
		必須	粒度（75μmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	75μmふるい：±5%以内基準粒度	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧（平成18年版）表 10.5.1による。	○			基準類の改定に伴う修正								
		必須	アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	アスファルト量：±0.9%以内	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧（平成18年版）表 10.5.1による。	○			基準類の改定に伴う修正								

土木施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）								改正（令和2年7月）								改定理由		
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準		摘要	試験成績表等による確認
29 排水性舗装工・透水性舗装工	プラント	その他	水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -57	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認	○	29 排水性舗装工・透水性舗装工	プラント	その他	水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -65	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認	○	基準類の改定に伴う修正
		その他	ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -39	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認	○			基準類の改定に伴う修正							
		その他	ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -17	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認	○			基準類の改定に伴う修正							
		その他	カンタプロ試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -111	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の骨材飛散抵抗性の確認	○			基準類の改定に伴う修正							
舗設現場	必須	現場透水良試験	舗装調査・試験法便覧 [1] -122	X10 1,000mL/15sec以上 X10 300mL/15sec以上（歩道箇所）	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。			舗設現場	必須	現場透水良試験	舗装調査・試験法便覧 [1] -154	X10 1,000mL/15sec以上 X10 300mL/15sec以上（歩道箇所）	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。				基準類の改定に伴う修正	
	必須	現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -97		・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。				必須	現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -224		・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。			基準類の改定に伴う修正
				車道					基準密度の94%以上				X3=96.5%以上 X4^6=96%以上 X7^=96%以上					
歩道	基準密度の90%以上	X3=92.5%以上 X4^6=92%以上	歩道	基準密度の90%以上	X3=92.5%以上 X4^6=92%以上													
30 簡易舗装工	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -5	下層路盤：10%以上 上層路盤：20%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	30 簡易舗装工	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -68	下層路盤：10%以上 上層路盤：20%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	基準類の改定に伴う修正
		必須	一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -38	上層路盤 セメント安定処理：一軸圧縮強さ [7日間] 2.45N/mm ² (25kgf/cm ²) 以上 石灰安定処理：一軸圧縮強さ [10日間] 0.69N/mm ² (7kgf/cm ²) 以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・セメント・石灰安定処理に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。				○	必須	一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -102	上層路盤 セメント安定処理：一軸圧縮強さ [7日間] 2.45N/mm ² (25kgf/cm ²) 以上 石灰安定処理：一軸圧縮強さ [10日間] 0.69N/mm ² (7kgf/cm ²) 以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・セメント・石灰安定処理に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	○

土木施工管理基準 新旧対照表

現行 (令和元年7月)								改正 (令和2年7月)								試験成績表等による確認	改定理由		
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要				
30	簡易舗装工	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -185 [3] -91	路盤：基準密度の93% 表層：基準密度の94%	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	300㎡以下は省略できる。	○	30	簡易舗装工	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -256 [3] -218	路盤：基準密度の93% 表層：基準密度の94%	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	300㎡以下は省略できる。	基準類の改定に伴う修正
			必須	粒度 (2.36mmフルイ)	路盤：JIS A 1102 表層：舗装調査・試験法便覧 [2] -14	路盤： 2.36mmふるい：±15%以内 表層： 2.36mmふるい：±12%以内	路盤：1,000㎡に1～2回または随時 表層：1～2回/日または随時	300㎡以下は省略できる。					基準類の改定に伴う修正						
			必須	粒度 (75μmフルイ)	路盤：JIS A 1102 表層：舗装調査・試験法便覧 [2] -14	路盤： 75μmふるい：±6%以内 表層： 75μmふるい：±4.5%以内	路盤：1,000㎡に1～2回または随時 表層：1～2回/日または随時						基準類の改定に伴う修正						
			必須	アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	アスファルト量：±0.9%以内	1～2回/日または随時	瀝青安定処理、表層に適用する。						基準類の改定に伴う修正					
			必須	ブルーフローリング	舗装試験法便覧 1-7-4	全面	全面	・下層路盤、マカダムおよび浸透式マカダム路盤に適用する。 ・但し、荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。						基準類の改定に伴う修正					
31	プラント再生舗装工	材料	必須	再生骨材アスファルト抽出後の骨材粒度	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	再生骨材使用量500 t ごとに1回	・試験練り立会い検査結果の提出により省略できる。	○	31	材料	必須	再生骨材アスファルト抽出後の骨材粒度	舗装調査・試験法便覧 [2] -16	再生骨材使用量500 t ごとに1回	・試験練り立会い検査結果の提出により省略できる。	○	基準類の改定に伴う修正		
			必須	再生骨材旧アスファルト含有量	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	3.8%以上	再生骨材使用量500 t ごとに1回	・試験練り立会い検査結果の提出により省略できる。				○	基準類の改定に伴う修正						
		プラント	必須	粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±12%以内 再アス処理の場合、2.36mm：±15%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧 (平成18年版) 表 10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○	31	プラント	必須	粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -16	2.36mmふるい：±12%以内 再アス処理の場合、2.36mm：±15%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧 (平成18年版) 表 10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○	基準類の改定に伴う修正
			必須	粒度 (75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	75μmふるい：±5%以内 再生アス処理の場合、75μm：±6%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧 (平成18年版) 表 10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○				基準類の改定に伴う修正						
			必須	再生アスファルト量	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	アスファルト量：±0.9%以内 再アス処理の場合、アスファルト量：±1.2%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧 (平成18年版) 表 10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○				基準類の改定に伴う修正						

土木施工管理基準 新旧対照表

現行 (令和元年7月)								改正 (令和2年7月)								改定理由												
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準		摘要	試験成績表等による確認										
31 プラント 再生舗装工	その他	水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -57	設計図書による。	設計図書による。	耐水性の確認		○	31 プラント 再生舗装工	その他	水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -65	設計図書による。	設計図書による。	耐水性の確認		○	基準類の改定に伴う修正										
																			その他	ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -39	設計図書による。	設計図書による。	耐流動性の確認		○	基準類の改定に伴う修正	
																												その他
舗設現場	必須	現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -19		個々の測定値	測定値の平均値 X n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	舗設現場	必須	現場の密度測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -218		個々の測定値	測定値の平均値 X n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	○	基準類の改定に伴う修正									
																				車道	基準密度の94%以上	X3=96.5%以上 X4^6=96%以上 X7^=96%以上	車道	基準密度の94%以上	X3=96.5%以上 X4^6=96%以上 X7^=96%以上			
																										歩道	基準密度の90%以上	X3=92.5%以上 X4^6=92%以上
48 火山砂利	材料	その他	最大乾燥密度の測定	JISA1210 (試験方法E法)	30%以上	・採取地毎に1回及び採取地の変った場合にはその都度測定する。 ・突固め試験は骨材の最大寸法を取り除いて行う。 ・生産者等の試験成績結果によることできる。(ただし、試験実施日が施工期間を著しくずれていない場合に限る。)		○	48 火山砂利	材料	その他	最大乾燥密度の測定	JISA1210 (試験方法E法)	30%以上	・採取地毎に1回及び採取地の変った場合にはその都度測定する。 ・突固め試験は骨材の最大寸法を取り除いて行う。 ・生産者等の試験成績結果によることできる。(ただし、試験実施日が施工期間を著しくずれていない場合に限る。)		○	基準類の改定に伴う修正										
																			修正CBRの測定	「舗装試験便覧」路盤材料の修正CBR試験	修正CBRの測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -5						
																							骨材のふるい分け試験	5mm以下	9~15%以下	骨材のふるい分け試験	5mm以下	9~15%以下

土木工事施工管理基準 新旧対照表

現行（令和元年7月）	改正（令和2年7月）	改定理由
<p style="text-align: center;">写真管理基準</p> <p>（撮影の仕様） 6. 写真の色彩やサイズは以下のとおりとする。 (1) 写真はカラーとする。 (2) 有効画素数は小黒板の文字が判読できることを指標とする。縦横比は3：4程度とする。 (100万画素程度～300万画素程度=1,200×900程度～2,000×1,500程度) 映像と読み替える場合は、以下も追加する。 (3) 夜間など通常のカメラによる撮影が困難な場合は、赤外線カメラを用いる等確認可能な方法で撮影する。 (4) フレームレートは、実速度で撮影する場合は、30fps程度を基本とする。高倍速での視聴を目的とする場合は、監督員と協議の上、撮影時に必要な間隔でタイムラプス映像を撮影することができる。</p>	<p style="text-align: center;">写真管理基準</p> <p>（撮影の仕様） 6. 写真の色彩やサイズは以下のとおりとする。 (1) 写真はカラーとする。 (2) 有効画素数は小黒板の文字が判読できることを指標とする。 (100万画素程度～300万画素程度=1,200×900程度～2,000×1,500程度) 映像と読み替える場合は、以下も追加する。 (3) 夜間など通常のカメラによる撮影が困難な場合は、赤外線カメラを用いる等確認可能な方法で撮影する。 (4) フレームレートは、実速度で撮影する場合は、30fps程度を基本とする。高倍速での視聴を目的とする場合は、監督員と協議の上、撮影時に必要な間隔でタイムラプス映像を撮影することができる。</p>	<p>国に準拠して改正</p>
<p>（その他） 9. 用語の定義 (1) 代表箇所とは、当該工種の代表箇所での仕様が確認できる箇所をいう。 (2) 適宜とは、設計図書の様子が写真により確認できる必要最小限の箇所や枚数のことをいう。 (3) 不要とは、「デジタル写真管理情報基準（国土交通省）」の写真管理項目にある「提出頻度写真」に該当しないことをいう。</p>	<p>（その他） 9. 用語の定義 (1) 代表箇所とは、当該工種の代表箇所での仕様が確認できる箇所をいう。 (2) 適宜とは、設計図書の仕様が写真により確認できる必要最小限の箇所や枚数のことをいう。 (3) 不要とは、工事写真帳として貼付整理し提出する必要がないことをいう。</p>	<p>表現の修正</p>

土木工事施工管理基準 新旧対照表

現行 (令和元年7月)												改正 (令和2年7月)												改定理由
レディーミクストコンクリート取扱基準												レディーミクストコンクリート取扱基準												
I 取扱基準												I 取扱基準												基準類の改定に伴う修正
レディーミクストコンクリートの配合適用基準												レディーミクストコンクリートの配合適用基準												
No	種別	コンクリートの種類	呼び強度 N/mm ²	スランプ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類	水セメント比%以下	単位セメント量 kg	空気量 %	JIS規格の有無	摘要	No	種別	コンクリートの種類	呼び強度 N/mm ²	スランプ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類	水セメント比%以下	単位セメント量 kg	空気量 %	JIS規格の有無	摘要	
1	PC横桁・PC桁間コンクリート・PCホーローコースラブの間詰	普通	30	8	25	N	—	—	4.5	○		1	PC横桁・PC桁間コンクリート・PCホーローコースラブの間詰	普通	30	12	25	N	—	—	4.5	○		
2	PCスラブ桁の間詰	普通	24	8	25	N	—	—	4.5	○		2	PCスラブ桁の間詰	普通	24	12	25	N	—	—	4.5	○		
3	PCボステン主桁	普通	40	8	25	H	—	—	4.5	○		3	PCボステン主桁	普通	40	12	25	H	—	—	4.5	○		
4	合成床版	普通	30	12	25	N	55	—	4.5	○		4	合成床版	普通	30	12	25	N	55	—	4.5	○		
5	非合成床版、RC床版、(鉄筋コンクリート)側溝蓋	普通	24	12	25	N	55	—	4.5	○		5	非合成床版、RC床版、(鉄筋コンクリート)側溝蓋	普通	24	12	25	N	55	—	4.5	○		
6	(鉄筋コンクリート)地覆、壁高欄	普通	24	12	25	N	55	—	4.5	○		6	(鉄筋コンクリート)地覆、壁高欄	普通	24	12	25	N	55	—	4.5	○		
7	場所打杭 水中：オールケーシング杭、リバース杭	普通	30	18	25	BB	55	350以上	4.5	○		7	場所打杭 水中：オールケーシング杭、リバース杭	普通	30	18	25	BB	55	350以上	4.5	○		
8	場所打杭 大気中：深礎工	普通	24	8	25	BB	55	—	4.5	○		8	場所打杭 大気中：深礎工	普通	24	12	25	BB	55	—	4.5	○		
9	トンネル覆工用 (機械打設)	普通	18	15	40	BB	60	—	4.5	○	[単位セメント量270以上]	9	トンネル覆工用 (機械打設)	普通	18	15	40	BB	60	—	4.5	○	[単位セメント量270以上]	
10	トンネル施工用 (インバート打設)	普通	18	8	40	BB	60	—	4.5	○	[単位セメント量240以上]側壁導杭の一次覆工含む	10	トンネル施工用 (インバート打設)	普通	18	8	40	BB	60	—	4.5	○	[単位セメント量240以上]側壁導杭の一次覆工含む	
11	(鉄筋コンクリート)水門・排水機場 (上屋を除く)・堰	普通	24	12	25	BB N	55	—	4.5	○	塩害を受けやすい構造物はBBを標準とする	11	(鉄筋コンクリート)水門・排水機場 (上屋を除く)・堰	普通	24	12	25	BB N	55	—	4.5	○	塩害を受けやすい構造物はBBを標準とする	
12	(鉄筋コンクリート)橋台・橋脚・函渠類・鉄筋コンクリート擁壁・橋門・橋管	普通	24	12	25	BB N	55	—	4.5	○	塩害を受けやすい構造物はBBを標準とする	12	(鉄筋コンクリート)橋台・橋脚・函渠類・鉄筋コンクリート擁壁・橋門・橋管	普通	24	12	25	BB N	55	—	4.5	○	塩害を受けやすい構造物はBBを標準とする	
13	河川護岸及び砂防護岸に使用する石積 (張) 胴裏込	普通	18	8	25	BB	60	—	4.5	○		13	河川護岸及び砂防護岸に使用する石積 (張) 胴裏込	普通	18	8	25	BB	60	—	4.5	○		
14	厚16cm未満の側溝・集水桝、石積 (張) 胴裏込・管渠	普通	18	8	25	BB	60	—	4.5	○		14	厚16cm未満の側溝・集水桝、石積 (張) 胴裏込・管渠	普通	18	8	25	BB	60	—	4.5	○		
15	重力擁壁・モタレ擁壁	普通	18	8	40	BB	60	—	4.5	○		15	重力擁壁・モタレ擁壁	普通	18	8	40	BB	60	—	4.5	○		
16	石積・ストーンガード・標識及び照明灯基礎・厚16cm以上の側溝等	普通	18	8	40	BB	60	—	4.5	○		16	石積・ストーンガード・標識及び照明灯基礎・厚16cm以上の側溝等	普通	18	8	40	BB	60	—	4.5	○		

土木工事施工管理基準 新旧対照表

現行 (令和元年7月)	改正 (令和2年7月)	改定理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
<p>5品質管理</p> <p>(1) コンクリート供試体の確認</p> <p>ア A法</p> <p>③写真については、静岡県電子納品ガイドラインによる。</p>	<p>5品質管理</p> <p>(1) コンクリート供試体の確認</p> <p>ア A法</p> <p>③写真については、静岡県情報共有・電子納品ガイドラインによる。</p>	<p>基準類の改定に伴う修正</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
<p>様式-1</p> <p style="text-align: center;">レディーミクストコンクリート配合計画書</p> <p style="text-align: right;">No. _____ 平成 年 月 日</p> <p style="text-align: center;">様 _____</p> <p style="text-align: right;">製造会社・工場名 _____</p> <p style="text-align: right;">配合計画者名 _____</p> <p>工事名称 _____</p> <p>所在地 _____</p> <p>納入予定時期 _____</p> <p>本配合の適用期間 a) _____</p> <p>コンクリートの打込み箇所 _____</p> <p style="text-align: center;">配合の設計条件</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び方</th> <th>コンクリートの種類による記号</th> <th>呼び強度</th> <th>スランプ又はスランプフロー cm</th> <th>粗骨材の最大寸法 mm</th> <th>セメントの種類による記号</th> </tr> </table> <p>指定事項</p> <table border="1"> <tr> <td>セメントの種類</td> <td>呼び方欄に記載</td> <td>空気量</td> <td colspan="3">%</td> </tr> <tr> <td>骨材の種類</td> <td>使用材料欄に記載</td> <td>軽量コンクリートの単位容積質量</td> <td colspan="3">kg/m³</td> </tr> <tr> <td>粗骨材の最大寸法</td> <td>呼び方欄に記載</td> <td>コンクリートの温度</td> <td colspan="3">最高最低℃</td> </tr> <tr> <td>アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)</td> <td>呼び方欄に記載</td> <td>水セメント比の目標値の上限</td> <td colspan="3">%</td> </tr> <tr> <td>骨材のアルカリシリカ反応性による区分</td> <td>使用材料欄に記載</td> <td>単位セメント量の目標値の上限</td> <td colspan="3">kg/m³</td> </tr> <tr> <td>水の区分</td> <td>使用材料欄に記載</td> <td>単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限</td> <td colspan="3">kg/m³</td> </tr> <tr> <td>混和材料の種類及び使用量</td> <td>使用材料及び配合表欄に記載</td> <td>流動化後のスランプ増大量</td> <td colspan="3">cm</td> </tr> <tr> <td>塩化物含有量</td> <td>kg/m³以下</td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>呼び強度を保證する材齢</td> <td>日</td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">使用材料 c)</p> <table border="1"> <tr> <th>セメント</th> <th>生産者名</th> <th>種類</th> <th>密度 (g/cm³)</th> <th>Na2Oeq% d)</th> </tr> <tr> <th>混和材</th> <th>製品名</th> <th>種類</th> <th>密度 (g/cm³)</th> <th>Na2Oeq% e)</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">骨材</th> <th rowspan="2">No.</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">産地又は品名</th> <th rowspan="2">アルカリ反応性による区分 f)</th> <th rowspan="2">粒の大きさの範囲 g)</th> <th rowspan="2">粗粒率又は実積率 h)</th> <th colspan="2">密度 (g/cm³)</th> <th rowspan="2">微粒分量の範囲 (%) i)</th> </tr> <tr> <th>絶乾</th> <th>表乾</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">細骨材</th> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th rowspan="3">粗骨材</th> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>混和剤①</th> <th>製品名</th> <th>種類</th> <th>Na2Oeq% j)</th> <th></th> </tr> <tr> <th>混和剤②</th> <th>製品名</th> <th>種類</th> <th>Na2Oeq% j)</th> <th></th> </tr> <tr> <th>細骨材の塩化物量 k)</th> <th>%</th> <th>水の区分 l)</th> <th>目標スラッジ固形分率 m)</th> <th>%</th> </tr> <tr> <th>回収骨材の使用法 n)</th> <th>細骨材</th> <th>粗骨材</th> <th></th> <th></th> </tr> </table> <p style="text-align: center;">配合表 (kg/m³) o)</p> <table border="1"> <tr> <th>セメント</th> <th>混和材</th> <th>水</th> <th>細骨材 ①</th> <th>細骨材 ②</th> <th>細骨材 ③</th> <th>粗骨材 ①</th> <th>粗骨材 ②</th> <th>粗骨材 ③</th> <th>混和剤 ① p)</th> <th>混和剤 ②</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水セメント比</td> <td colspan="2">%</td> <td colspan="3">水結合材比 q)</td> <td colspan="3">%</td> <td>細骨材率</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>備考 骨材の質量配合割合 r)、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。</p>	呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号	セメントの種類	呼び方欄に記載	空気量	%			骨材の種類	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³			粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	コンクリートの温度	最高最低℃			アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	呼び方欄に記載	水セメント比の目標値の上限	%			骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	単位セメント量の目標値の上限	kg/m ³			水の区分	使用材料欄に記載	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m ³			混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	流動化後のスランプ増大量	cm			塩化物含有量	kg/m ³ 以下					呼び強度を保證する材齢	日					セメント	生産者名	種類	密度 (g/cm ³)	Na2Oeq% d)	混和材	製品名	種類	密度 (g/cm ³)	Na2Oeq% e)	骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分 f)	粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 (g/cm ³)		微粒分量の範囲 (%) i)	絶乾	表乾	細骨材	①									②									③									粗骨材	①									②									③									混和剤①	製品名	種類	Na2Oeq% j)		混和剤②	製品名	種類	Na2Oeq% j)		細骨材の塩化物量 k)	%	水の区分 l)	目標スラッジ固形分率 m)	%	回収骨材の使用法 n)	細骨材	粗骨材			セメント	混和材	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ① p)	混和剤 ②												水セメント比	%		水結合材比 q)			%			細骨材率	%	<p>様式-1</p> <p style="text-align: center;">レディーミクストコンクリート配合計画書</p> <p style="text-align: right;">No. _____ 年 月 日</p> <p style="text-align: center;">様 _____</p> <p style="text-align: right;">製造会社・工場名 _____</p> <p style="text-align: right;">配合計画者名 _____</p> <p>工事名称 _____</p> <p>所在地 _____</p> <p>納入予定時期 _____</p> <p>本配合の適用期間 a) _____</p> <p>コンクリートの打込み箇所 _____</p> <p style="text-align: center;">配合の設計条件</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び方</th> <th>コンクリートの種類による記号</th> <th>呼び強度</th> <th>スランプ又はスランプフロー cm</th> <th>粗骨材の最大寸法 mm</th> <th>セメントの種類による記号</th> </tr> </table> <p>指定事項</p> <table border="1"> <tr> <td>セメントの種類</td> <td>呼び方欄に記載</td> <td>粗骨材の最大寸法</td> <td colspan="3">呼び方欄に記載</td> </tr> <tr> <td>骨材の種類</td> <td>使用材料欄に記載</td> <td>アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>骨材のアルカリシリカ反応性による区分</td> <td>使用材料欄に記載</td> <td>軽量コンクリートの単位容積質量</td> <td colspan="3">kg/m³</td> </tr> <tr> <td>水の区分</td> <td>使用材料欄に記載</td> <td>コンクリートの温度</td> <td colspan="3">最高・最低℃</td> </tr> <tr> <td>混和材料の種類及び使用量</td> <td>使用材料及び配合表欄に記載</td> <td>水セメント比の目標値の上限</td> <td colspan="3">%</td> </tr> <tr> <td>塩化物含有量</td> <td>kg/m³以下</td> <td>単位セメント量の目標値の上限</td> <td colspan="3">kg/m³</td> </tr> <tr> <td>呼び強度を保證する材齢</td> <td>日</td> <td>単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限</td> <td colspan="3">kg/m³</td> </tr> <tr> <td>空気量</td> <td></td> <td>流動化後のスランプ増大量</td> <td colspan="3">cm</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">使用材料 c)</p> <table border="1"> <tr> <th>セメント</th> <th>生産者名</th> <th>種類</th> <th>密度 (g/cm³)</th> <th>Na2Oeq% d)</th> </tr> <tr> <th>混和材</th> <th>製品名</th> <th>種類</th> <th>密度 (g/cm³)</th> <th>Na2Oeq% e)</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">骨材</th> <th rowspan="2">No.</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">産地又は品名</th> <th rowspan="2">アルカリ反応性による区分 f)</th> <th rowspan="2">粒の大きさの範囲 g)</th> <th rowspan="2">粗粒率又は実積率 h)</th> <th colspan="2">密度 (g/cm³)</th> <th rowspan="2">微粒分量の範囲 (%) i)</th> </tr> <tr> <th>絶乾</th> <th>表乾</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">細骨材</th> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th rowspan="3">粗骨材</th> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>混和剤①</th> <th>製品名</th> <th>種類</th> <th>Na2Oeq% j)</th> <th></th> </tr> <tr> <th>混和剤②</th> <th>製品名</th> <th>種類</th> <th>Na2Oeq% j)</th> <th></th> </tr> <tr> <th>細骨材の塩化物量 k)</th> <th>%</th> <th>水の区分 l)</th> <th>目標スラッジ固形分率 m)</th> <th>%</th> </tr> <tr> <th>回収骨材の使用法 n)</th> <th>細骨材</th> <th>粗骨材</th> <th></th> <th></th> </tr> </table> <p style="text-align: center;">配合表 (kg/m³) o)</p> <table border="1"> <tr> <th>セメント</th> <th>混和材</th> <th>水</th> <th>細骨材 ①</th> <th>細骨材 ②</th> <th>細骨材 ③</th> <th>粗骨材 ①</th> <th>粗骨材 ②</th> <th>粗骨材 ③</th> <th>混和剤 ① p)</th> <th>混和剤 ②</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水セメント比</td> <td colspan="2">%</td> <td colspan="3">水結合材比 q)</td> <td colspan="3">%</td> <td>細骨材率</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>備考 骨材の質量配合割合 r)、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。 運搬時間の限度を変更した場合； 時間</p>	呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載			骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)				骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³			水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度	最高・最低℃			混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	水セメント比の目標値の上限	%			塩化物含有量	kg/m ³ 以下	単位セメント量の目標値の上限	kg/m ³			呼び強度を保證する材齢	日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m ³			空気量		流動化後のスランプ増大量	cm			セメント	生産者名	種類	密度 (g/cm ³)	Na2Oeq% d)	混和材	製品名	種類	密度 (g/cm ³)	Na2Oeq% e)	骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分 f)	粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 (g/cm ³)		微粒分量の範囲 (%) i)	絶乾	表乾	細骨材	①									②									③									粗骨材	①									②									③									混和剤①	製品名	種類	Na2Oeq% j)		混和剤②	製品名	種類	Na2Oeq% j)		細骨材の塩化物量 k)	%	水の区分 l)	目標スラッジ固形分率 m)	%	回収骨材の使用法 n)	細骨材	粗骨材			セメント	混和材	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ① p)	混和剤 ②												水セメント比	%		水結合材比 q)			%			細骨材率	%	<p>基準類の改定に伴う修正</p>
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
セメントの種類	呼び方欄に記載	空気量	%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
骨材の種類	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	コンクリートの温度	最高最低℃																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	呼び方欄に記載	水セメント比の目標値の上限	%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	単位セメント量の目標値の上限	kg/m ³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
水の区分	使用材料欄に記載	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m ³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	流動化後のスランプ増大量	cm																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
塩化物含有量	kg/m ³ 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
呼び強度を保證する材齢	日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
セメント	生産者名	種類	密度 (g/cm ³)	Na2Oeq% d)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
混和材	製品名	種類	密度 (g/cm ³)	Na2Oeq% e)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分 f)	粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 (g/cm ³)		微粒分量の範囲 (%) i)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
							絶乾	表乾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
細骨材	①																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	②																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	③																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
粗骨材	①																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	②																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	③																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
混和剤①	製品名	種類	Na2Oeq% j)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
混和剤②	製品名	種類	Na2Oeq% j)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
細骨材の塩化物量 k)	%	水の区分 l)	目標スラッジ固形分率 m)	%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
回収骨材の使用法 n)	細骨材	粗骨材																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
セメント	混和材	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ① p)	混和剤 ②																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
水セメント比	%		水結合材比 q)			%			細骨材率	%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度	最高・最低℃																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	水セメント比の目標値の上限	%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
塩化物含有量	kg/m ³ 以下	単位セメント量の目標値の上限	kg/m ³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
呼び強度を保證する材齢	日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m ³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
空気量		流動化後のスランプ増大量	cm																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
セメント	生産者名	種類	密度 (g/cm ³)	Na2Oeq% d)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
混和材	製品名	種類	密度 (g/cm ³)	Na2Oeq% e)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分 f)	粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 (g/cm ³)		微粒分量の範囲 (%) i)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
							絶乾	表乾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
細骨材	①																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	②																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	③																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
粗骨材	①																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	②																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	③																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
混和剤①	製品名	種類	Na2Oeq% j)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
混和剤②	製品名	種類	Na2Oeq% j)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
細骨材の塩化物量 k)	%	水の区分 l)	目標スラッジ固形分率 m)	%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
回収骨材の使用法 n)	細骨材	粗骨材																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
セメント	混和材	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ① p)	混和剤 ②																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
水セメント比	%		水結合材比 q)			%			細骨材率	%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																